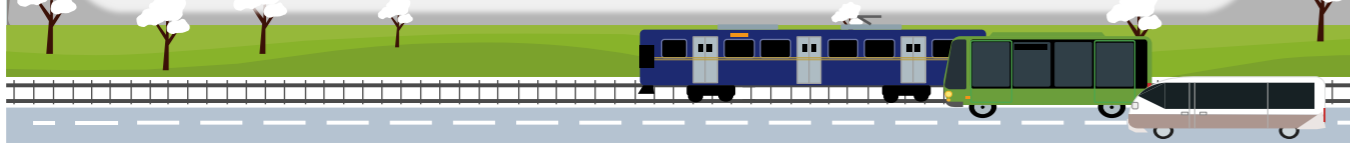


軽井沢町地域公共交通計画 概要版

基本方針

誰もが「すごしやすい軽井沢ライフ」を送れる公共交通の形成



軽井沢町地域公共交通計画とは？

軽井沢町内の鉄道・バス・タクシーをはじめとした公共交通について、令和12年度(2030)を目標とした今後のあり方や取組内容を整理したものの。

計画の目標

目標1 路線バスを主体とした路線網の構築

町内循環バスの維持、パーク&レールライドの推進、鉄道との乗り継ぎの確保など、町民・別荘所有者・観光客を支える基盤を作ります。

目標2 公共交通空白地等の解消

町内全域を対象としてデマンド交通を導入し、町民の3人に1人が該当する公共交通空白地の解消を目指します。

目標3 公共交通の持続可能性の向上

日常生活で利用するメリットや具体的な活用方法を周知し、利用者の維持や創出を図るほか、人材確保の支援も行うことにより、公共交通の持続可能性の向上を目指します。

目標4 利用者満足度の高い利用環境の整備

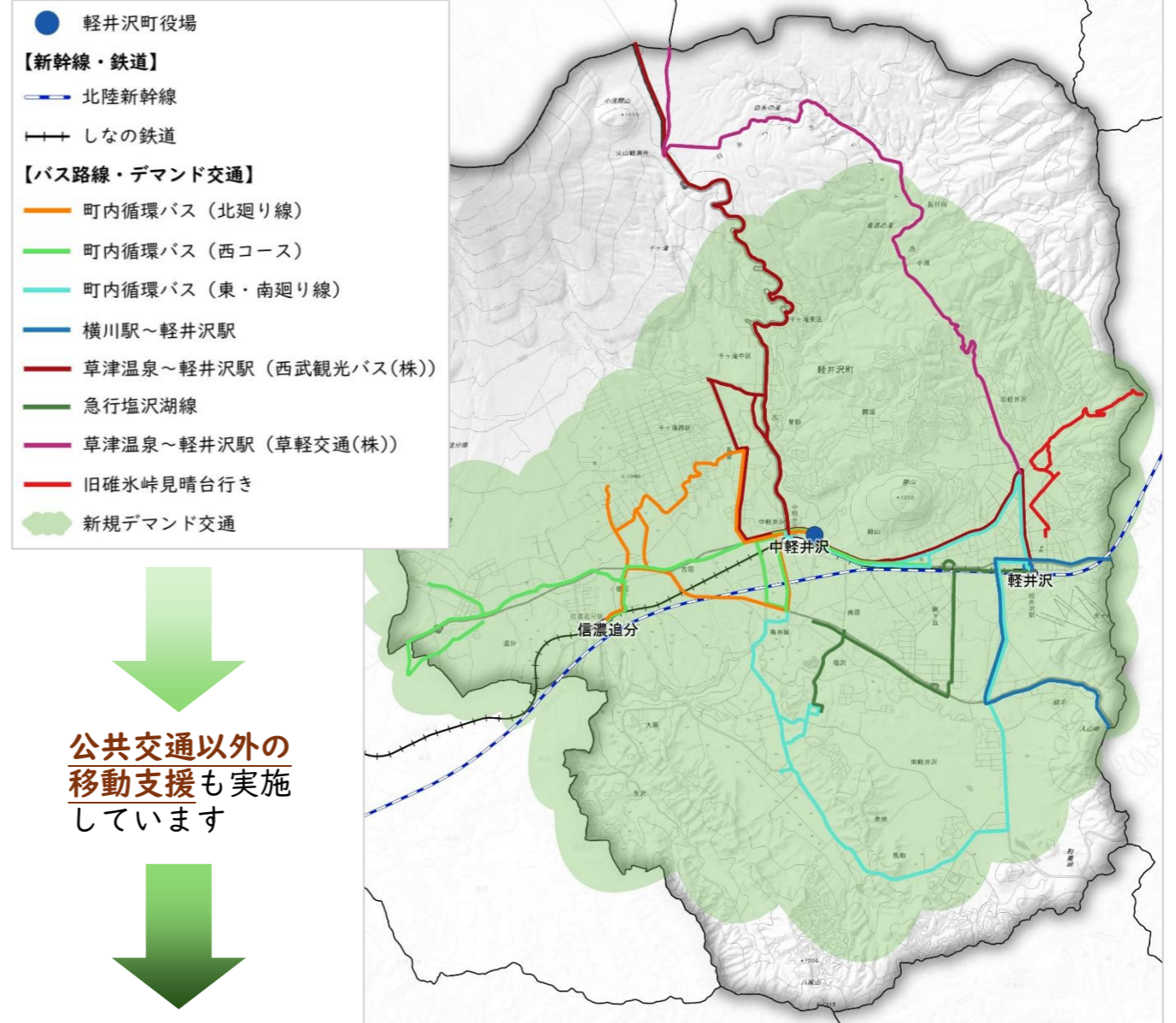
情報発信の強化や電子決済の導入による利用者満足度の向上と、バスの待合環境の充実を目指します。

今後の公共交通の姿

幹	長距離鉄道軸	北陸新幹線
	近隣鉄道軸	しなの鉄道線
	幹線バス路線	軽井沢駅～草津温泉 軽井沢駅～横川駅
枝	生活支線	町内循環バス
	観光支線	急行塩沢湖線 旧碓氷峠見晴台行き
葉	予約型乗合交通	新規デマンド交通
	自由移動支援交通	一般タクシー (ライドシェア含む)



公共交通の路線網



公共交通以外の移動支援も実施しています

その他の移動支援

バス路線廃止地区でのタクシー利用システム事業
一部地区の町民・別荘所有者の方を対象に、タクシーの運賃の一部を助成します。

デマンドタクシー実証運行事業
町民・別荘所有者のうち、交通弱者の方を対象にタクシー運賃の一部を助成します。

すこやかお出かけ利用券支給事業
外出支援を目的として、65歳以上の町民を対象に、温泉施設や町内の公共交通で利用可能な利用券を支給します。

マイクロバス貸し出し
町内の小中学校や社会教育関係団体を対象に、マイクロバスを貸し出します。

遠距離通学タクシー
町立小中学校へ遠距離通学が必要な一部地区の小中学生のタクシー通学を補助します。


移送サービス事業(タクシー券)
65歳以上の一人暮らしまたは外出に不自由のある高齢者世帯の方に、タクシー券を交付します。

シャトルバス(軽井沢駅～雲場池)
紅葉シーズンなどの観光需要が大きくなる時期に、雲場池までのシャトルバスを期間限定で運行します。


三 取り組む事業の内容

目標1 路線バスを主体とした 路線網の構築

路線バス・タクシーの維持・確保


 町内で運行する、町内循環バス、民間路線バス、タクシーがこれからも運行を続けられるよう、町が交通事業者と連携して運行を確保します。

パーク&レールライドの推進（混雑対策）

 駅周辺の駐車場の確保やインターネット上での空車情報の提供、しなの鉄道の増便事業を継続しつつ、車を停めて鉄道で移動するパーク&レールライドを広めます。

目標2 公共交通空白地等の解消

新規デマンド交通の導入


 町民の3人に1人が該当している公共交通空白地を解消するため、町内全域を対象としてデマンド交通を導入します。

✓ ポイント


鉄道やバスの「幹」や「枝」に加え、「葉」の役割のデマンド交通を導入することで、より細かな移動にも対応できる路線網を目指します。

目標3 公共交通の持続可能性の向上


モビリティマネジメント（啓発活動）

 バスの乗り方教室といった公共交通の便利さや車を使わない生活のメリットを伝える活動を通じて、高齢者や児童・生徒の皆さんを中心に公共交通利用の浸透を図ります。

情報発信の強化


 バスの乗り方なども分かる、より分かりやすい新たな利用案内を作成します。また、ホームページ等でも最新情報を分かりやすく発信します。

新たなモビリティ（自動運転など）の研究


 将来のさらなる人材不足等に備えるため、自動運転バスなどの新しい技術について、軽井沢での活用に向けて研究を進めます。

目標4 利用者満足度の高い 利用環境の整備


デジタルサイネージ（電光掲示板）の設置

 交通結節点やバス停近くの施設を中心に、バスの発車時刻や運行状況を表示するデジタルサイネージを設置します。これにより、効率的な情報発信を目指します。

キャッシュレス（電子決済）の導入検討

 現金を用意しなくても、交通系ICのカードやスマートフォンでバスの運賃が支払えるよう、キャッシュレスの導入に向けて検討を進めます。

バスの待合環境の充実

 バス停近くの施設でバス到着まで待つことができ、さらにはデジタルサイネージで運行状況も確認できるなど、快適にバスを待てる環境を作ります。

事業のスケジュール

	1年目 令和8年度 (2026)	2年目 令和9年度 (2027)	3年目 令和10年度 (2028)	4年目 令和11年度 (2029)	◎5年目 令和12年度 (2030)
目標1 路線網の構築	路線バス・タクシー 運行の維持・確保				
	鉄道連携、混雑対策 パーク&レールライドの推進				
目標2 空白地等の解消	新規デマンド交通 体制構築・運行開始				
目標3 持続可能性の 向上	利用啓発 モビリティマネジメントの継続実施				
	情報発信強化 利用案内作成 ダイヤ変更に合わせて情報更新				
	新たなモビリティ 自動運転などについて継続的に研究				
目標4 利用環境の 整備	デジタルサイネージ 交通結節点やバス停近くの施設を中心に導入				
	電子決済 町内循環バス全路線への導入				
	待合環境 協力要請 施設と連携した環境整備				

達成を目指す数値目標

